

# 児童が主体的に取り組む小学校音楽科の授業づくり —表現及び鑑賞の領域を関連させた授業を通して—

教職実践専攻・教育実践開発コース  
学籍番号 19GP505 氏名 須藤 大貴

## 1 はじめに

小学校学習指導要領解説音楽編<sup>1)</sup>では、音楽科の目標を「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す」としており、その中の育成すべき資質・能力の3つ目に「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う」を掲げている。このうち、「音楽活動の楽しさを体験する」とは、「主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実践することである」としている。このことから、小学校音楽科の目標にせまるためには、児童が目的意識を持って、主体的に音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽活動に取り組むことが特に重要であると捉えた。

以上のことから、本研究では、児童が自ら目的意識を持って音楽活動に取り組んでいく主体性をどのように育てていくことができるかを、授業実践やその分析等を通して考察することとしたい。

## 2 研究概要

### (1) 音楽科における主体性について

中央教育審議会答申<sup>2)</sup>では、「主体的な学び」を「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」学びとしている。

また、音楽科における主体性について、金本(2002)は「子供たちが、様々な音楽や楽器に積極的に働きかけ、自分自身の感じ方や考え方を広げながら音楽表現を楽しんだり、音楽を聴いてそのよさや美しさを深く感じ取ったりするような学習活動を展開していくこと」と述べている<sup>3)</sup>。加えて、金本(2002)は「自ら学ぶ学習指導」として、学習形態の工夫や教材の工夫を挙げており、また、表現形態の選択によって、「子供たちは自分たちの思いや願いを実現するために、進んで学習活動に取り組むようになる」と述べている<sup>3)</sup>。

### (2) 音楽科の各領域や分野の関連について

小学校学習指導要領第2章第6節「音楽」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」1(4)で「第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)並びに「B鑑賞」の(1)の指導については、適宜、[共通事項]を要として各領域や分野の関連を図るようにすること。」と示している。ここでいう「領域」とは「A表現」と「B鑑賞」であり、「分野」とは表現領域の中の「歌唱」「器楽」「音楽づくり」を指している。つまり、2つの領域を関連させながら、それらに共通する音楽の要素や仕組み(リズム、メロディー、強弱など)を元に学習を進めるということである。また、これについて高倉(2017)は「1つの題材に常に4つの領域や分野の活動を取り入れる必要はない。ある時は器楽と音楽づくりで、そしてまた、ある時は器楽と音楽づくりと鑑賞で、という具合に指導のねらいに応じて柔軟に、かつ適切に指導計画を立てることが肝要である」としている<sup>4)</sup>。

以上のことから、児童が自ら目的意識を持って音楽活動に取り組んでいく主体性を育てていくためには、学習形態の工夫や教材の工夫、表現と鑑賞の領域を関連させた指導の工夫が特に重要であると考える。そこで筆者は、育成すべき主体的な姿として、児童が自らの考えをもとに、進んで音

楽の良さや特徴を深く聴き取ったり、表現の工夫をしたりして、より良い演奏を目指す児童を掲げ、実践に取り組むこととした。

### 3 研究の具体的な取組

(1) 授業実践概要(2年次集中実習 8月27日～9月4日実施)

①対象 A小学校第5学年(23人)

②題材名 思いを表現に生かそう(全4時間)

③授業仮説 教材や学習活動の工夫をするとともに、表現と鑑賞の領域を関連させた授業を展開することで、音楽科における主体的な児童の姿が見られるであろう。

④本題材における「児童が主体的に授業に取り組むための手立て」

1時間目では、導入で『威風堂々』の曲の冒頭だけを聴かせて、曲の続きに関心を持つように構成した。また、1学期で学習した『春の海』の鑑賞の授業を振り返らせることで、学習の繋がりを意識させるとともに、鑑賞する際の観点として音色や曲の速さ等を示し、能動的に聴こうとする意欲を持つように構成した。鑑賞後、児童の発言に関連して、再度部分的に音源を聴かせ、聴き取ったことを共有させるなど、曲の特徴やよさを児童に印象付け、その後の表現活動の意欲に繋げた。鑑賞から演奏の練習に移行する際、児童に身近な楽器による演奏の音源を聴かせることで、演奏に対するイメージやその後の見通しを持たせるとともに、4時間目に「威風堂々」のグループ発表会を行うことを伝え、進んで練習し発表したいという意欲を持つように構成した。

2・3時間目では、前時の鑑賞で学んだことを想起させることで、各グループで演奏の工夫を考える際の材料を増やすようにした。また、児童が発表に使用する楽譜は教科書にある主要なパートにしぼることで、短時間の練習ではほぼすべての児童がスムーズに演奏できるようにした。さらに、演奏の工夫の観点を示すことで、工夫する視点を明確にさせるとともに、児童の思いを演奏の工夫に生かしやすくした。3時間目後半に中間発表の機会を設けることで、その時点でのそれぞれのグループの課題を確認させ、本番の発表(4時間目)に向けて意欲を持つように構成した。

4時間目では、冒頭で改めて演奏で伝えたい思いや工夫について確認させることで、発表への意欲を高めるようにした。また、鑑賞する側に聴く観点を示し、ワークシートに記述する活動を設定することで、進んで聴こうとする意欲を持たせた。本時のまとめでは、児童の演奏や鑑賞の態度について共感的に評価(褒める等)することで、児童に成就感・達成感を持たせるようにした。

⑤各時間の指導計画及び主体的に取り組むための手立ての工夫(★印で表記)

時間	目標	主な学習活動	★主体的に取り組むための手立て
1	曲の雰囲気をつかみ、曲想やその変化と音色、速度、音の重なりなど音楽の構造との関わりを理解して鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観賞用 CD で全曲を通して聴き、『威風堂々』の曲全体の感じをつかむ。</li> <li>・Aの旋律とイの旋律の曲想の違いを感じ取る。</li> <li>・Aの旋律とイの旋律の雰囲気の違いについて、気づいたことを話し合う。</li> <li>・『威風堂々』の主な旋律を楽器で演奏する。</li> <li>・4時間目に『威風堂々』の演奏発表会を行うことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★1 曲の冒頭だけを聴かせることで、曲の続きに関心を持つ。</li> <li>★2 1学期に学習した『春の海』の授業を振り返ることで、学習の繋がりを意識し、進んで聴こうとする意欲を持つ。</li> <li>★3 鑑賞する際の観点として、音色や音の重なり、曲の速さを具体的に示すことによって、能動的に聴こうとする意欲に繋がる。</li> <li>★4 曲の特徴やよさについて児童に強く印象に残るよう、しっかり押さえることで、この後の表現活動の意欲に繋がる。</li> <li>★5 児童に身近な楽器での演奏の音源を聴かせることで、演奏に対するイメージや練習したいという意欲を持つ。</li> <li>★6 発表会の場の設定など、今後の3時間の見通しを示すことで、意欲を持ち、目指す活動(発表)が明確になる。</li> <li>★7 頑張った人を全体の場で褒めることで、成就感や達成感を持つ。</li> </ul>
2	鑑賞して聴き取ったことをもとに強弱や音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導用 CD を聴き、演奏する旋律を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★8 前時で学習したことを、本時の演奏の工夫に繋げることで、各グループでの工夫の材料が増える。</li> </ul>

3	色、速度など、どのように演奏するかについて思いや意図をもって演奏の仕方を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導用 CD に合わせ、演奏する。</li> <li>・各グループで、強弱や速度、音色などの工夫するところを話し合う。</li> <li>・演奏をして、発表に向けて自分たちの思いを生かし、練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★9 頑張った人を全体の場で褒めることで、成就感や達成感を持つ。</li> <li>★10 観点を示すことで、工夫を考えやすくなる。</li> <li>★11 中間発表の機会を設けることで、各グループの課題等を見つけ、さらにより演奏にしようとする意欲が高まる。</li> <li>★12 練習時間を確保することで、演奏技能を高め、より演奏への意欲が高まる。</li> <li>★13 楽譜に小節番号を書き入れたものを配布することで、話し合いや練習時のやり取りが活発になる。</li> </ul>
4	強弱や音色や速度など、各グループで工夫した表現を鑑賞する側に伝わるように演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のグループの思いや演奏の工夫について確認する。</li> <li>・発表に向けて、最終調整をする。</li> <li>・グループごとで演奏し、鑑賞し合う。</li> <li>・各グループの演奏について振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★14 前時に配布して書き込ませた楽譜をもとに確認させることで、進んで演奏しようとする意欲を持つ。</li> <li>★15 鑑賞する側には聴く観点を示すとともに、ワークシートを配布・記述させることで、進んで聴こうとする意欲を持つ。</li> <li>★16 最後に、児童の演奏や鑑賞の態度について共感的に評価(褒める等)することで、児童が成就感・達成感を持つ。</li> </ul>

(2) 各時間の授業の記録と省察

①授業実践 (8月27日 1/4時間目)

表1 授業の終末に書かせたワークシートの記述内容(1/4時間目)

ワークシートの項目	児童の記述内容(児童数:全23人中)
1. どんないことがきき取れましたか？ (どんな音色か、音の重なり、速さはどうか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の速さが速くなったり、ゆっくりになったりする。(15人)</li> <li>・曲の途中からやさしく、ゆっくり、ゆるやか。(10人)</li> <li>・最初は強い音色、激しい。(9人)</li> <li>・くりかえしがある、多い[速いゆっくり、音の強弱のくりかえし]。(6人)</li> <li>・たくさんの楽器の音が重なっているところが多い[打楽器と木管楽器などの音が重なっている]。(6人)</li> <li>・だんだん音が大きくなり小さくなる[クレシェンド、デクレシェンドが激しいなど]。(5人)</li> <li>・急に音が大きくなる。(2人)</li> <li>・曲調が変わった。(1人) ・行進曲(1人)</li> </ul>
☆どんな様子を思い浮かべましたか？またはどんな感じがしましたか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偉い人が歩いている。(5人)</li> <li>・卒業式の様子(4人)</li> <li>・表彰式の場面(2人)</li> <li>・昔のことや楽しいことを思い浮かべる。(1人)</li> <li>・サーカスなどで動物がダンスしている様子(5人)</li> <li>・お祝い事や、めでたい時の様子(4人)</li> <li>・堂々と歩いている。(1人)</li> </ul>
2. 今日の音楽の時間に、あなたががんばったことを書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・威風堂々をリコーダー、鍵盤ハーモニカで演奏した。(8人)</li> <li>・威風堂々の曲の特徴や様子、風景を思い浮かべてきけた。(7人)</li> <li>・威風堂々を吹いた。たくさん練習したいと思った。(1人)</li> <li>・演奏を先生の演奏みたいにできるようがんばった。(1人)</li> <li>・威風堂々をがんばって吹いたけど、うまくできなかったのこれから練習したい。(1人)</li> </ul>

単元の1時間目では『威風堂々』を鑑賞させた。その際、聴く観点(音色、音の重なり、速さ)を示し、どんないことが聴き取れたか、どんな様子を思い浮かべたかを、それぞれワークシートに書かせ、発表させた。また、授業後半では、4時間目に演奏会をすることを告げ、演奏会に向けた練習を行った。表1は、本時で使用したワークシートに書かれた児童の記述をまとめたものである。

項目1のどんないことが聴き取れたかについては、聴く観点に従って、音色の種類や強弱、曲の速度、音の重なりについて具体的に書いている児童が多かった。音の重なりについては、「たくさんの楽器の音が重なっている」と書いている児童が多かったが、「打楽器や木管楽器の音」と表現したり、具体的な楽器の名前を挙げたりしている児童もいた。これらの記述から、児童がより具体的に音楽的要素を聴き取ろうとする姿勢が窺える。また、曲中で繰り返し用いられる旋律や、強弱のタイミング(だんだん大きくなる、急に強くなる)について記述している児童も多く、教

師が示した聴く観点以外の観点で聴き取っていることが分かり、鑑賞における児童の主体的な姿が窺える。このような姿が認められたのは、手立ての★2（以後、★印は前頁の手立てを指す）の「1学期の学習との繋がりを意識させたこと」や、★3の「聴く観点をもとに鑑賞させたこと」が要因として考えられる。

項目2の本時の授業で頑張ったこととしては、『威風堂々』の鑑賞の聴き方を頑張ったことを記述している児童や、授業の後半に活動した『威風堂々』を演奏したことについて記述している児童が多かった。特に「たくさん練習したい」や「先生の演奏みたいにできるようがんばった」といった児童の意欲が感じられる記述もあり、鑑賞から表現への意欲の繋がりを読み取ることができた。これらの記述は、★5の「児童にとって身近な楽器で演奏した音源を聴かせ」て、自分にもできるという意欲を喚起させたことや、★6の「今後の3時間の見通しを示す」ことで、意欲を持たせ、目指す活動を明確にさせたことの効果であると考えられる。

## ②授業実践（8月31日、9月2日 2・3/4時間目）

表2 楽譜に記述された工夫点

小節番号	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1	・16まで弱く		・弱(8まで) ・2回目落ち着いた感じでゆっくり ・2回目強く
7			・1回目1～8までリコーダーだけで演奏
9		・2回目はふつう ・だんだん強く(9～12)	・強く ・ミ・ファ#に○ ・1回目の9～16は弱くふく
10		・クレシェンド	・強
12		・最初の音量	
13		・だんだん弱くする(13～16) ・最初の音に合わせる ・最初の音量に合わせていく	
17	・29まで強く		
18		・強くする(18～20) ・がんと上げる	・強
19	・だんだん強く		
25			・ここまでふつうの速さ
26		・だんだん強く ・強くする(26～29) ・クレシェンド	・ゆっくり(26～29) ・伸ばす音
28			・強く
小節外のスペースへの記述	・速さ同じ(ふつう) ・せんりつなめらか ・Yさんは息継ぎのところで息つぎしない		・1回目1～8リコーダー ・9から29全員 ・2回目1～8全員 ・1回目1～16弱 ・2回目1強い ・9,10,11,18,28 強

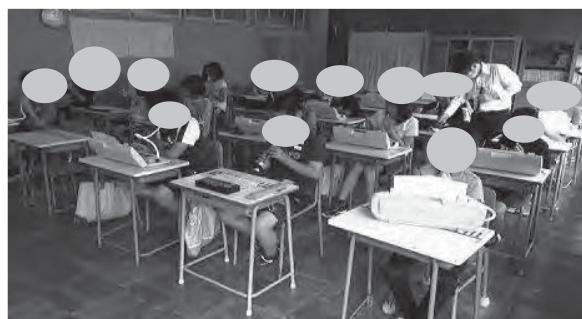


図1 全体練習での様子



図2 個人練習の様子

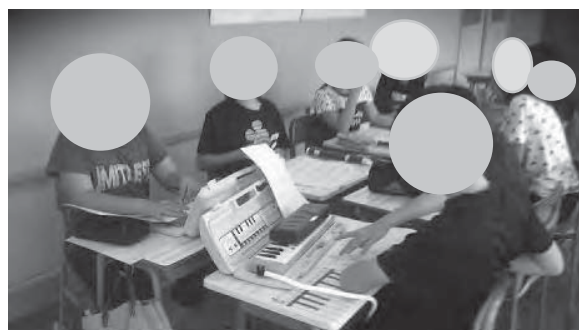


図3 グループ毎に演奏の工夫点を話し合う様子

The image displays three hand-drawn musical scores, each with handwritten annotations in Japanese. The scores are arranged vertically and labeled on the right side as 'Aグループ', 'Bグループ', and 'Cグループ'.

- Aグループ (Top):** The score consists of four staves. Annotations include:
  - Staff 1: ①-④まで弱く、⑤-⑧まで強く、速さは同じ、せんりつ、はあが、8=
  - Staff 2: ① 1回目はこつちを吹く
  - Staff 3: ② ここまで吹いたら2回目はこつちを吹く
  - Staff 4: ③ 強く
  - Bottom right: Aグループ
- Bグループ (Middle):** The score consists of four staves. Annotations include:
  - Staff 2: ① 1回目はこつちを吹く
  - Staff 3: ② 2回目はこつちを吹く
  - Staff 4: ③ ここまで吹いたら2回目はこつちを吹く
  - Staff 5: ④ 大人と上げる
  - Staff 6: ⑤ 大人と上げる
  - Bottom right: Bグループ
- Cグループ (Bottom):** The score consists of four staves. Annotations include:
  - Staff 1: ①-④はリコーン、リコーンにはせんりつ、⑤-⑧まで弱く、⑨-⑫まで強く
  - Staff 2: ① 1回目はこつちを吹く
  - Staff 3: ② ここまで吹いたら2回目はこつちを吹く
  - Staff 4: ③ ゆっくり
  - Staff 5: ④ ゆっくり
  - Bottom right: Cグループ

図4 児童が演奏の工夫点を記述した楽譜(著作権の関係で音符を削除している)

単元の2時間目では、『威風堂々』の旋律を演奏する楽器をリコーダー、鍵盤ハーモニカのうちから児童の希望に合わせて選択させた上で、教師が手本を示しながら、曲を一通り演奏し、曲の全体像をつかませ、全体練習を行った(図1参照)。その後、個人で練習する時間をとり、教師は机間巡視しながら、演奏が苦手な児童を中心に指導してまわった(図2参照)。

単元3時間目では、7、8人のグループ(計3グループ)に分かれ、1時間目の鑑賞で聴き取ったことをもとに、グループ毎に演奏の工夫点を話し合った(図3参照)。ここでは★8、10の手立てとして、鑑賞での学びを振り返りつつ、演奏の工夫の観点として、①強弱、②速さ、③その他(息継ぎ、スラーなど)を示すことで、工夫の材料を増やし、考えやすくした。実際、図3のように各グループで活発に話し合う姿が見られ、各々の児童が自分の楽譜に演奏の工夫点を書き込んでいたことが分かる。

各グループの児童が練習や発表の際使用した楽譜が図4である。この楽譜はB4の大きさで、あらかじめ小節番号や階名などを書き加え、練習を進めやすいよう工夫した。

表2は各グループの児童が楽譜に記入した工夫点をまとめたものである。3グループで共通しているのは1から16小節までは弱く演奏し、繰り返して2回目同じ旋律を演奏する際は、強く演奏するという工夫である。これは、鑑賞で音源から聴き取った表現を、自分たちの演奏に取り入れようとしているためと考えられる。強弱の工夫が多いことも共通して見られることである。これらは、鑑賞の際に聴いた音源の表現にも見られるものであり、手立て★4の「威風堂々という曲の特徴やよさを強く印象づけたこと」や、★8の「鑑賞で聴き取ったこと(1時間目)を振り返る時間をとったこと」がその要因であると考えられる。

また、Aグループでは、息継ぎのタイミングや曲想についての記述があり、Bグループでは強弱を徐々に付けていく工夫が特徴的である。Cグループでは、前半の8小節はリコーダーのみで演奏するという記述があり、これは、鑑賞した音源にもなかったCグループ独自の工夫である。このように音源の模倣だけでなく、各グループで表現に個性が見られる。特にCグループの工夫の独自性(7小節目)から、児童の主体性が読み取れる。

加えて★13の手立て「予め楽譜に小節番号を書き入れたこと」は、児童の話し合いの場面で演奏の工夫についてのやりとりを活発化させることに役立った。また、この小節番号は楽譜の位置を明確に示しているため、4時間目の練習や発表の際にも頻繁に使用された。

### ③授業実践(9月4日 4/4時間目)



図5 工夫点を確認している様子



図6 演奏前の最後の練習の様子

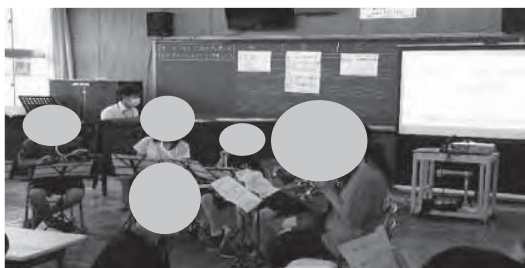


図7 グループ毎の発表の様子

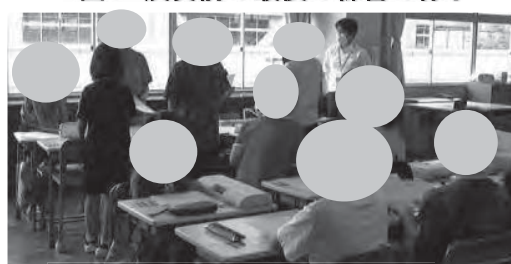


図8 授業終末の感想発表の様子

単元4時間目では、まず、グループ毎に工夫する部分の最終確認を行い、練習した（図5、6参照）。単元3時間目では、全グループ音楽室のみで練習させていたが、自分のグループの演奏の音が聞こえにくいという難点があったため、本時では、音楽室と音楽準備室の2つの部屋で、各グループが離れて練習できるようにした。授業後半の発表では、半円状の隊形にし、一般に行われる演奏会に近い形で演奏させた（図7参照）。その際、教師はピアノで伴奏をし、児童の演奏のサポート役に徹した。また、発表前に各グループの演奏の工夫点を発表させ、鑑賞するポイントを明確にさせた。各グループの演奏後、鑑賞した他の2グループそれぞれ1人ずつに演奏を聴いた感想を発表させた。

以下は、Aグループで演奏前に工夫点を発表させた時点から、演奏後に他グループの児童が感想を発表するまでの状況を抜粋したものである。

T:ではAグループのみなさん、演奏の工夫点について簡単に説明してください。  
 C1:①から⑩までは音が弱い。⑪から⑳までは強い。  
 C2:速さは一定で、なるべくなめらかに。  
 T:(他には)盛り上がりやフレーズに気を付けるとも書いていますね。  
 では発表してもらいたいと思います。  
 C1:なんで笑ってるの。  
 C3:緊張してるから。  
 C1:一斉の一でー  
 —Aグループの演奏—  
 T:すごい演奏でした。  
 C:(B, Cグループから大きな拍手)  
 C4:すごかった。  
 T:ではBグループから1名感想をお願いします。  
 C5:はい。強弱の差が伝わってきた。  
 T:ありがとうございます。  
 T:ではCグループから  
 C6:はい。鍵盤とリコーダーの音が合っていました。(T:教師, C:児童, 丸数字は楽譜の小節番号)

上記の児童のやり取りの中で、緊張しているという発言が見られたものの、どのグループも落ち着いて演奏している様子が見られ、むしろ余裕を感じさせる児童もいた。また、3グループとも演奏が途中で止まるなど、大きなアクシデントもなく、演奏できていた。これらは、単元3時間目に中間発表の時間をとったことで、★11の効果が見られたものと考えられる。各グループの感想を発表する場面をみると、「音の強弱の差」や「音が合っていた」など具体的な表現で演奏を評価していることが分かる。これらのことから、鑑賞する側も具体的な表現で感想を述べる段階まで到達していたことが分かる。

表3は各グループの児童が書いたワークシートの記述内容をまとめたものである。

表3 授業の終末に書かせたワークシートの記述内容(4/4時間目)

ワークシートの項目	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1.自分たちの演奏で①よかったところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人と合わせられた。</li> <li>・前できなかった音をしっかり出せた。</li> <li>・ミスが少なかった。</li> <li>・演奏に集中できた。</li> <li>・速さがちょうど良かった(一定のテンポでできた)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが決めた工夫をちゃんとやっていた。</li> <li>・強弱がしっかり出せた。</li> <li>・みんなで最後までできた。</li> <li>・少しのミスを修正できた。</li> <li>・ノーミスでひけた。</li> <li>・楽譜をあまり見ずにできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで協力できた。</li> <li>・音をそろえてできた。</li> <li>・工夫など、気をつけるべきところを守れた。</li> <li>・間違いをすぐ直せた。</li> <li>・高い音、低い音を吹き分けられた。</li> <li>・ミスが少なかった。</li> </ul>
②これからがんばりたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もつとなめらかにできるように</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいに吹きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かんぺきにできるようにしたい。</li> </ul>

いこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・したい。</li> <li>・間違ったところをなくしたい。</li> <li>・全部できるようにする。</li> <li>・自信を持って吹きたい。</li> <li>・工夫をもっとしたい。</li> <li>・強弱をがんばる。</li> <li>・ファ#をできるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の速度で演奏したい。</li> <li>・ミスをなくしたい。</li> <li>・強弱をもっと目立たせたい。</li> <li>・しっかりやりたい。</li> <li>・あまり楽譜を見ないで演奏したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏の速さに気を付けたい。</li> <li>・自信を持って吹くこと。</li> <li>・強弱を出せるようがんばりたい。</li> <li>・失敗した部分をがんばりたい。</li> <li>・今回は別の楽器で挑戦したい。</li> <li>・演奏のずれをなくしたい。</li> </ul>
2. 他のグループの演奏をきいてよかったところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム、強さもぴったり演奏していた。</li> <li>・速さが一定のペースだった。</li> <li>・旋律がなめらかだった。</li> <li>・間違いが少なかった。</li> <li>・音がうまく重なっていた。</li> <li>・強弱がしっかり伝わってきて分かりやすい。</li> <li>・ミスが少なかった。</li> <li>・高い音がじょうずだった。</li> <li>・前よりもじょうずで、工夫も伝わってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいにふけていた。</li> <li>・みんなが合わせて上手だった。</li> <li>・たくさんの工夫があった。</li> <li>・みんな楽譜を覚えていた。</li> <li>・全員が鍵盤ハーモニカで間違いがあんまりなかった。</li> <li>・強弱が分かりやすい。</li> <li>・迫力があつた。</li> <li>・間違えても調整できていた。</li> <li>・音がしっかり重なっていた。</li> <li>・Hさんが楽譜を覚えて吹いていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーの音がきれいだった。</li> <li>・最初リコーダーだけで、途中から鍵盤を使っていたのがすごかった。</li> <li>・間違いが少なかった。</li> <li>・工夫が伝わってきた。</li> <li>・演奏がきれいだった。</li> <li>・一定のテンポで吹けていた。</li> <li>・途中から鍵盤ハーモニカが入るところがミスがなくて良かった。</li> <li>・ミスが少なかった。</li> </ul>
3. 授業でがんばったことや感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫が伝わる演奏ができた。</li> <li>・何回もみんなで練習した。</li> <li>・本番の発表でミスなくできた。</li> <li>・前の練習よりもじょうずに吹けたし、つまづかないで吹けるようになった。</li> <li>・みんなと合わせて演奏できて楽しかった。</li> <li>・自分の気持ちが伝わる演奏をこれからもしたい。</li> <li>・工夫などを意識して演奏したのは初めてだった。</li> <li>・ミスもあつたけど最後まで吹けて良かった。</li> <li>・テンポをとるのが前よりできるようになった。</li> <li>・今までやってきた中で一番きんちょうした。</li> <li>・周りの人の演奏を見てもっとがんばろうと思った。</li> <li>・楽譜を覚えて演奏することをがんばりたい。</li> </ul>		

項目1①「自分たちの演奏でよかったところ」については、グループで共通する記述として、「ミスが少なかった」、「失敗せずできた」という記述や、「みんなで協力して演奏できた」、「工夫に気を付けて演奏できた」といった記述が多く見られた。児童の記述の中で「楽譜を見ずに演奏できた」や「前できなかった音を出せた」など、具体的に何ができるようになったかについての記述も見られる。これらは、練習の中で目的意識を持って取り組まなければ書けないものと考えられる。この要因としては、★12の「練習時間を授業の中でできるだけ多く確保したこと」が考えられる。

また、項目1②の「これからがんばりたいこと」については、「ミスをなくしたい」、「間違いをなくしたい」といった記述の他に、「工夫をもっとしたい」、「強弱をもっと目立たせたい」、「演奏の速さを気を付けたい」など、今後に向けてもっと音楽表現を工夫したいという意欲が感じられる記述もあった。これらは、発表後の達成感から「もっとこうしたい」という意欲に繋がったと考えられ、様々な手立てによって促されたものであると思われる。

項目2の他のグループの演奏に対しての感想では、どのグループの児童も、音色、速さ、演奏の工夫がどうだったかについて書いていた。特に聴く観点については、本時では特に教師側からは触れなかったが、多くの児童がこれを意識して書いていることが記述から読み取れ、★3の「聴く観点をもとに鑑賞させる」手立ての効果が、ここでも認められた。また、どの記述も単に「演奏がじょうずだった」という抽象的な表現でなく、具体的にどこがよかったかを書いていることが分かり、発表する側としてだけでなく、鑑賞する側としても主体的に取り組んでいたことが窺えた。

#### 4 授業の事前・事後アンケートについて

この題材の授業を行う前と行った後に、学級の児童(23人)を対象にそれぞれアンケートを実施した。その回答結果をまとめたのが表4である。また、各児童が授業前と授業後で回答した結果をt検定で比較したのが表5である。



表4 アンケートの結果（8月27日の結果が前、9月4日の結果が後である。数字は回答した児童の人数）

質問項目	よく当てはまる (5)		当てはまる (4)		どちらともいえない (3)		あまり当てはまらない (2)		当てはまらない (1)		無回答	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
1 音楽の授業は楽しい。	16	22	4	0	1	1	1	0	0	0	1	0
2 音楽は、得意だ。	4	6	6	11	8	4	4	2	0	0	1	0
3-1 リコーダーを演奏することは得意だ。	4	7	8	11	3	2	6	3	0	0	2	0
3-2 鍵盤ハーモニカを演奏することは得意だ。	5	12	6	7	7	1	3	2	0	1	2	0
4 楽器を演奏することは楽しい。	15	20	3	3	4	0	0	0	0	0	1	0
5 楽器の演奏にはやる気を出して取り組む。	11	17	9	5	2	1	0	0	0	0	1	0
6 音楽の時間には、思ったことや考えたことを進んで発表する。	3	12	7	7	8	1	4	2	0	1	1	0

どの質問項目も、授業の前よりも後の方が、「よく当てはまる」「当てはまる」に回答した人数が増える結果となった。

表5 t検定によるアンケート結果の比較

項目1, 2, 3-2, 6では, t検定の結果からも有意な差が認められた。要因として, 項目1と2については, 自分たちで音楽表現を工夫する活動にやりがいを感じ, 単元の4時間目の発表で目標を達成できたことが影響していると考えられる。また, ★5, 6, 12, 16など, 練習や発表の見通しや目標をはっきりさせ, できたことをしっかり評価する

質問項目	N	事前	事後	t 値	df
1	22	4.59 (0.78)	4.91 (0.42)	2.66*	21
2	22	3.45 (0.99)	3.95 (0.88)	3.18**	21
3-1	21	3.48 (1.1)	3.9 (0.97)	1.76 +	20
3-2	20	3.7 (0.95)	4.45 (0.92)	3.47**	19
4	22	4.5 (0.78)	4.73 (0.69)	1.01 ns	21
5	22	4.41 (0.65)	4.68 (0.55)	1.64 ns	21
6	22	3.41 (0.94)	4.27 (1.05)	4.28**	21

注1) 事前, 事後の数値は平均値, ( ) はSD

注2) \*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , + $p < .10$

などの手立てをとったことも, その要因になったと考えられる。項目3-2については, この度の題材では, 鍵盤ハーモニカで演奏した児童が多く, 4時間の授業の中で多くの練習を重ねて発表まで頑張ったことが高評価につながったと考えられる。また, ★12の練習時間をできる限り多く確保するようにしたことも影響している。項目6については, 授業の中で児童自身の意見や演奏を発表する場面を多く設定したことや, ★3の聴く観点を示す手立てなど, 発表する内容を明確にさせたことも高評価につながったものと考えられる。事実, 4時間目の終末の振り返りでは, 全員が手を挙げて進んで本時の授業の感想を発表する場面が見られた(図8参照)。

一方、項目 3-1 で「リコーダーが得意だ」と回答する児童が、全体的に高い評価とならなかったのは、項目 3-2 とは逆にリコーダーを選択した児童が少なかったため、技術面での上達について実感できなかったことが要因として挙げられる。

また、項目 3-1 や 3-2 など、楽器が得意か否かを問う項目では、事前よりも評価が下がった児童がいた。要因としては、4 時間の授業の練習で上達の実感が得られなかったことや、児童によっては練習時間が足りなかったことが考えられる。

## 5 実践研究の成果と今後の課題

### (1) 成果

それぞれの時間の中でとった様々な手立てのうち、特に鑑賞をさせた後、これを踏まえて表現(演奏)の学習を行わせたこと、鑑賞や演奏の工夫をする際に観点を示したことや、授業の見通しやこの題材で目指すべき目標を明確にさせたこと、児童の活動を共感的に評価したこと、小節番号を楽譜に書き入れたことといった手立てをとったことで、育成すべき主体的な姿として掲げた、児童が自らの考えをもとに、進んで音楽の良さや特徴を深く聴き取ったり、表現の工夫をしたりして、より良い演奏を目指す姿が認められた。

また、筆者の昨年度の実践では、課題として、個々の児童の意欲の差の克服や、演奏を発表する側と鑑賞する側の双方が意欲的になるような発表場面の設定、手立ての有効性の客観的な検証方法が挙げられたが、今年度の実践では、これらの課題は改善できたと考える。

### (2) 課題

課題としては、一部の児童については、楽器演奏に対する児童の自己評価がまだ低いこと、個々の児童への演奏の指導が十分でなかったことが挙げられる。演奏の技能については、児童の意欲とも深く関係しており、演奏の技能が上達すればするほど、演奏を間違えないことだけでなく、演奏の表現の工夫に目を向ける余裕ができる。改善策として、児童同士での教え合いの時間をとったり、個人練習の時間を多くとったりするなどの対応が考えられる。今回、児童が練習できた時間は、合計で正味 80 分程度である。先述したとおり、★12 の手立てのように、できるだけ時間の確保に努めたものの、練習時間としては決して多くなかったと思われる。今後の改善点として、練習時間を多く確保するため、各授業での活動の教師の説明時間を短縮することなどが必要と考える。

加えて、今回の実践では、児童の考えや感想等を詳しく把握するため、毎時間ワークシートに記述させたが、書かせる量や書かせる時間が多かったことで、児童の学習活動への意欲やその持続が損なわれる懸念もあった。ワークシートの形式について、児童が手軽に書ける様式にしたい。

以上のことを踏まえながら、今後、さらに主体的に音楽科に取り組む児童を育てるための実践を続けていきたい。

### 引用・参考文献

- 1) 文部科学省 (2018) 「小学校学習指導要領解説音楽編」日本文教出版
- 2) 中央教育審議会 (2016) 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」  
<[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm) >  
〔2021年1月27日アクセス〕 pp 49 50
- 3) 金本正武(2002)「小学校音楽科基礎・基本と学習指導の実際」p.75,100,105
- 4) 高倉弘光(2017)「小学校新学習指導要領の展開音楽編」p.69